

エネルギー産業観光の拠点としてのむつ小川原(MO)

2016年1月7日（最終更新日2019年8月30日）



目次

§ 1	産業観光とは何か	3
§ 2	エネルギー産業拠点としてのMO	4
§ 3	青森県の観光トピック	5
§ 4	地域連携DMO「VISITはちのへ」	7
§ 5	三八・上北・下北地域のポテンシャル	8
§ 6	三八ー上北ー下北エネルギーツーリズム（仮）	9

§ 1 産業観光とは何か

日本には脈々と受け継がれてきた伝統産業、高度経済成長を生み出し支えてきた産業、世界をリードする最先端産業など、世界に誇れる数多くの産業があります。こうした産業の現場や技術を一般に公開することは、産業観光の施設や企業、技術・製品等のPRのみならず、来訪者と周辺地域との様々な交流による地域振興、伝統産業から最先端産業までの技術の進歩、生活を支えるものづくりの重要性の啓発、文化的側面からの産業振興等、社会的意義の枚挙には暇がありません。

一方、「知る」、「学ぶ」、「体験する」観光への志向が高まりを見せており、知的欲求を満足させることのできる観光形態が大きな注目を集めています。

こうした中で、「産業観光」という新しいタイプの観光が脚光を浴びています。

出典:「産業観光 ガイドライン『平成19年度中部圏における多軸連結構造の形成推進調査』」 国土交通省 都市・地域整備局
www.mlit.go.jp/common/000013176.pdf 2019年2月20日参照

<MOにおける産業観光の可能性>

MOには、多様なエネルギー産業拠点があり、低炭素化に早くから取り組んでいます。また、北東北3県と北海道には、約1万年にわたって定住し高度に発達・成熟した縄文文化の遺跡があり、世界遺産登録を目指しており、2019年7月30日に、2019年度にユネスコへ推薦する世界文化遺産推薦の国内候補に選定されました。

これらのエネルギー施設と歴史資産を結び付けることで、縄文の火おこしの時代からエネルギー利用技術の未来までを俯瞰できる、世界においても類を見ない「エネルギー産業観光エリア」となる可能性があります。

(1) 量子科学

- ・ MOには原子燃料サイクル施設、国際核融合エネルギー研究センター、青森県量子科学センターなどをはじめ、多様な原子力・量子科学関連施設が立地しています。

(2) 風力発電

- ・ 六ヶ所村は、風力発電施設の設備容量において、全国市町村別で第1位です。
出典:「日本における風力発電設備・導入実績(2018年3月末現在)」NEDO https://www.nedo.go.jp/library/fuuryoku/pdf/01_dounyuu_ichiran.pdf をもとに当社集計
- ・ MO周辺だけでも約130基の風力発電施設(青森県全体の約50%の設備容量)が稼動しており、蓄電施設のNAS(ナトリウム硫黄)電池を併設した発電所もあります。
- ・ 最近では、横浜町雲雀平風力発電所(事業主体:よこはま風力発電(株) 2,300kW×14基)が2018年2月1日に運転を開始しました。

出典:「青森県横浜町で32.2MW「横浜町雲雀平(ひばりたいら)風力発電所」が運転開始」日立キャピタルHP <https://www.hitachi-capital.co.jp/hcc/newsrelease/2018/20180201.pdf> 2018年4月20日参照

(3) 太陽光発電

- ・ 国内最大級の発電施設、ユーラス六ヶ所ソーラーパーク(事業主体:(株)ユーラス六ヶ所太陽光、発電出力115MW)が2015年11月に運転を開始しました。
- ・ 上北六ヶ所太陽光発電所(事業主体:未来創電上北六ヶ所(株)、発電出力51MW)が2017年2月に運転を開始しました。

(1) 北海道・北東北の縄文遺跡群が2019年度の国内世界文化遺産推薦候補に選定

- ・北海道、青森県、岩手県、秋田県にまたがる17の遺跡で構成される縄文遺跡群は、2019年7月30日に、2019年度にユネスコへ推薦する世界文化遺産推薦する国内候補に選定されました。国の文化審議会は、遺跡群を1万年以上にわたる狩猟や採集などを基盤とした農耕以前の生活・精神文化を知る上で「顕著で普遍的な価値がある」とまとめました。

出典:「令和元年度における世界文化遺産の推薦候補の選定について(文化審議会の審議結果(報告))」文化庁

http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afieldfile/2019/07/30/a1419458_02.pdf 2019年7月30日参照

(2) 外国人延べ宿泊者数の伸び率が全国一

- ・都道府県別外国人延べ宿泊者数(平成30年1～12月(速報値))で、青森県は前年比+45.7%で全国一の伸び率を記録しました。

出典:「宿泊旅行統計調査(平成30年・年間値(速報値))」観光庁 <http://www.mlit.go.jp/common/001274858.pdf> 2019年7月30日参照

(3) 青森港にクルーズ船専用ターミナルが完成

- ・青森港新中央ふ頭に、クルーズ船専用ターミナルが完成し、2019年4月24日に使用を開始しました。専用ターミナル施設は、秋田港に次いで東北で2番目となります。
- ・青森港には、クイーン・エリザベス(9万901トン、2,081人)が初入港するなど、2019年は過去最多の延べ27隻のクルーズ船の寄港が予定されています。

出典:「クルーズ船専用ターミナルが完成 青森港で使用開始 東北で2番目」河北新報

https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201904/20190425_23059.html 2019年4月30日参照

(4) 「外国人に人気の東北スポット」のベストテンに6か所がランクイン

- ・2017年7月～2018年7月に東北地方を訪れた外国人滞在者の人気スポット上位10位内に、青森県内の観光スポットが6か所ランクインしました。青森県に魅力的な観光素材が多数あることや、北海道から観光客が流れてきていることなどが影響していると思われます。

外国人が集まる東北の人気スポット上位10位

順位	スポット	滞在者数
1	<宮城県> 仙台市内（広瀬通り周辺）	83,191 人
2	<青森県> 青森市内（アスパム周辺）	59,795 人
3	<青森県> 星野リゾート青森屋周辺	50,766 人
4	<岩手県> 安比高原スキー場	34,157 人
5	<青森県> 十和田湖	33,071 人
6	<岩手県> 花巻温泉	30,544 人
7	<青森県> 奥入瀬溪流	30,442 人
8	<青森県> 三沢市内（三沢基地周辺）	29,905 人
9	<山形県> 蔵王スカイケーブル	25,353 人
10	<青森県> 弘前城	22,677 人

出典:兼平昌寛「外国人に人気の観光スポット 10位内に本県6か所」東奥日報2019年8月25日付

§ 4 地域連携DMO「VISITはちのへ」

＜八戸圏域DMO(観光地域づくり法人)「VISITはちのへ」＞（観光と物産の振興）

- ・八戸観光コンベンション協会と八戸地域地場産業振興センター、八戸市物産協会が合併し、八戸市の観光業務の6割と八戸広域観光推進協議会の業務を集約し2019年4月1日に発足しました。
- ・人口減少と地域経済の縮小という地域課題に真正面から取り組むべく、「交流人口の拡大」、「地域産品の振興」のための事業を展開し、「地域ブランドの確立」を図ることで新たなビジネスの創出と雇用の拡大、定住人口の増大を目指しています。
- ・マーケティング事業部門＝「マーケティング」、「MICE」、「地域商社」
- ・マネジメント事業部門＝「会員制度」、「受入環境整備」、「地域内関係」、「人材育成」
- ・オフィスは、職員個人の机を廃止し、取り組むプロジェクトなどに応じて自由に席を使い仕事できる「フリーアドレス」とするなど、時代を先取りしたデザインを採用しています。



出典:「日本版DMO形成・確立計画（VISITはちのへ）P4」国土交通省Webサイト
<http://www.mlit.go.jp/common/001265913.pdf> 2019年7月4日参照

(1) バイオマス発電

- ・日本最大級のバイオマス発電施設「八戸エコエネルギー発電所(発電出力75MW)」

(2) LNG基地

- ・八戸LNGターミナルは、北東北3県及び北海道東部地域へ天然ガス・LNGを供給

(2) 水素

- ・本州最北端の水素ステーション、おいらせ水素ステーション
- ・六ヶ所村は、平成30年度エネルギー構造高度化・転換理解促進事業（経産省）に採択され、FS調査を実施しました。

出典:「六ヶ所村水素導入可能性調査業務委託」報告書について」六ヶ所村HP <http://www.rokkasho.jp/index.cfm/7,10115.html> 2019年6月24日参照

(3) 量子科学～原子燃料サイクルから国際核融合炉研究開発施設まで～

- ・海水リチウム回収技術を活用し(特許取得済)、リチウム電池等のリサイクルを行い、リチウム資源循環技術の社会実相を目指す。リチウム採取の過程で、CO2利用で炭素循環するとともに、副産物で発生する水素利用を検討
- ・研究成果のエネルギー関連や医療等への応用による、産業立地展開を目指しています

出典:「超高純度リチウム資源循環アライアンス」(国研)量子科学技術研究開発機構 <https://www.qst.go.jp/site/collaboration/25946.html> 2019年7月30日参照

(4) 風力発電

- ・六ヶ所村は、風力発電施設の設備容量において、全国市町村別で第1位

出典:「日本における風力発電設備・導入実績(2018年3月末現在)」NEDO https://www.nedo.go.jp/library/fuuryoku/pdf/01_dounyuu_ichiran.pdf をもとに当社集計

- ・MO周辺だけでも約130基の風力発電施設(青森県全体の発電設備容量の約50%)が稼動中

(5) 太陽光発電

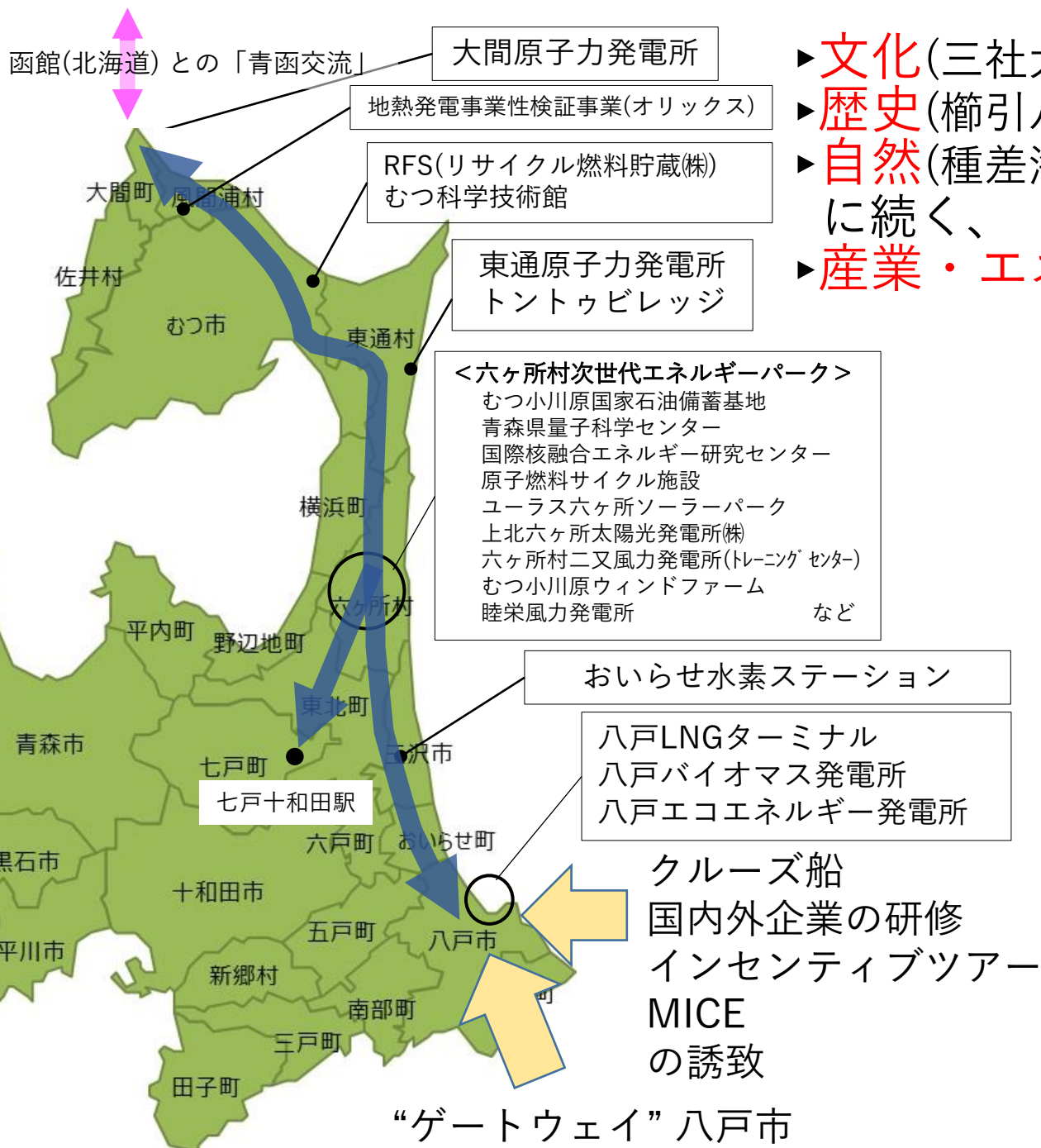
- ・国内最大規模の発電施設ユーラス六ヶ所ソーラーパーク(115MW)、上北六ヶ所太陽光発電所(51MW)
- ・風力発電施設を併設し、発電効率を高めるハイブリッド化の検討も進められています

(6) 地熱発電

- ・オリックスが風間浦村と青森市で地熱発電の事業性検証のための掘削調査を行っています



§ 6 三八ー上北ー下北エネルギーツーリズム（仮）



- ▶ **文化**(三社大祭、えんぶり、田名部まつり他)
- ▶ **歴史**(櫛引八幡宮、是川縄文遺跡、斗南藩史跡他)
- ▶ **自然**(種差海岸、蕪嶋神社、下北ジパーク、釜伏山他)
- ▶ **産業・エネルギー観光**の確立を目指して！



当資料は、新むつ小川原株式会社により作成されたものです。

- ・ 当資料は、情報提供を目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。
- ・ 当資料は当社が信頼できると思われる情報に基づき作成しておりますが、当社がその内容の正確性、実現性を保証するものではなく、情報に誤り等があった場合に当社は何らの責任を負うものではありません。
- ・ 当資料の著作権は新むつ小川原株式会社又は他の権利者に帰属します。著作権法で認められる場合を除き、許可なく利用することはできません。当資料を引用する場合は当社までご連絡ください。
- ・ 出典が記載されているデータ・図表等については出典元へ直接お問い合わせください。
- ・ 当資料に記載されている内容は、当社の都合により、予告なしに変更される場合があります。
- ・ 当資料の利用に関し生じたトラブルや損害等について、当社は何ら責任を負わないものとします。

当資料の利用に関するお問い合わせ先

新むつ小川原株式会社 E-mail : info@shinmutsu.co.jp

DISCUSSION PURPOSE ONLY